

## 大泰寺「十二神将立像」修復事業

宗教法人大泰寺 代表役員

西山 十海

<修復前>



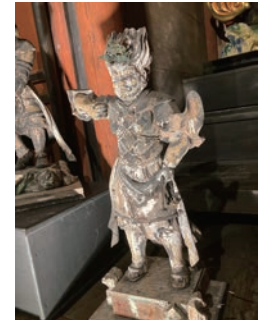
子神像



丑神像



寅神像



卯神像



辰神像



巳神像



午神像



未神像



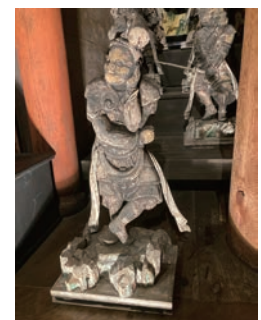
申神像



酉神像



戌神像



亥神像

### 十二神将立像

|     |           |
|-----|-----------|
| 子神像 | 全高 52.8cm |
| 丑神像 | 全高 51.3cm |
| 寅神像 | 全高 49.5cm |
| 卯神像 | 全高 51.5cm |
| 辰神像 | 全高 51.8cm |
| 巳神像 | 全高 47.8cm |
| 午神像 | 全高 51.5cm |
| 未神像 | 全高 48.8cm |
| 申神像 | 全高 50.5cm |
| 酉神像 | 全高 49.2cm |
| 戌神像 | 全高 47.4cm |
| 亥神像 | 全高 47.2cm |

和歌山県

### 解説

修復前に精緻な調査を行い、寸法や形状を記録した。詳細な調査は初めてで、後世に伝えられる十分な資料を作ることができた。制作時期は、鎌倉後期から室町前期頃と推定される。12体全てが制作当時から保存されており欠損がない点は高く評価できる。矧ぎ目が外れかけており、安定感を欠いていたが、修復の結果、非常に安定した状態を取り戻すことができた。また、十二神将の特徴である頭上の十二支や持物も、一部欠損していたが、作り直してもらい、本来の姿を参拝者に見て頂くことができたようになった。宿坊を営んでおり、世界中から大泰寺を訪れる観光客に、日本の仏像文化を学んで頂ける環境が整った。

<修復後>



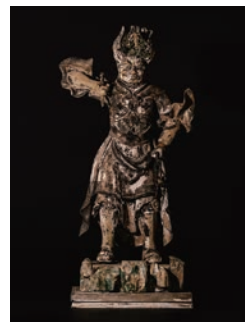
子神像



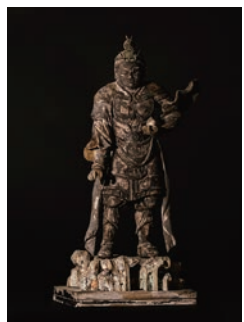
丑神像



寅神像



卯神像



辰神像



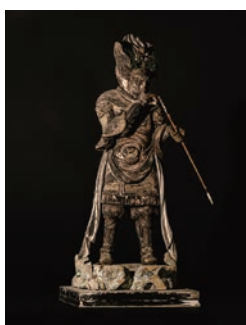
巳神像



午神像



未神像



申神像



酉神像



戌神像



亥神像

修復業者

有限会社 泉企画

修復内容

表面の塗装については剥落止めを施し塗装を安定させた。本体及び台座の矧ぎ目が緩んでいた箇所については、一旦割り離して、清掃後に再度接着し安定感をもたせた。また欠損箇所については、ヒノキ材で補作した。また持物については欠失や不適合な個所があり、ヒノキ材で補作した。背面の光背台が残っているものに関しては、一旦取り離し、本体修復後に元の位置に戻した。台が欠損している場合は、補作せず、そのままにした。

# 文化財修理報告書

和歌山県東牟婁郡那智勝浦町下和田 775

大泰寺蔵（薬師堂安置）

| 種類 | 名称       | 員数   |
|----|----------|------|
| 彫刻 | 木造十二神将立像 | 12 軀 |

法量：各像とも像高 47.4~52.8cm

## 【形状、品質構造】

（本軀）各像共通、桧材、一木割り矧ぎ造り、像内内刳を施す。頭頂から沓先、足柄まで共材で彫出。宝髪、焰髪、干支標識の頭部以外彫出、持物、天衣別材製、金銅製飾金具共に後補。仕上げは全体に黒色系の下地を施し、その上に桃色に変色した彩色下地を残す。

- 1, 子神 本軀は甲上の宝珠から沓、足柄まで同材で造り出し、干支標識を総て彫出する。両肩は各一材で、左手で宝珠を捧げる。
- 2, 丑神 本軀は頭部の湧き上がる髪を結び上げ、その中に標識を半ば彫出し、面部を別材で取り付ける（後補）。右手で宝剣（後補）を執る。
- 3, 寅神 本軀は頭部の湧き上がる髪を結び上げ、その中に標識を半ば彫出し、面部を別材で取り付ける（後補）。左肩先別材製。金剛杵（新補）。
- 4, 卯神 本軀は炎髪に結び上げ、その中に標識を半ば彫出し、面部を別材で取り付ける（新補）。両肩先別材製。左手持物後補羂索。右手持物金剛杵。
- 5, 辰神 本軀頭部は髪を髻とする。その中に標識を取り付ける（候補）。両肩先別材製。左手で持物宝珠（後補）を執る。
- 6, 巳神 本軀頭部は髪を炎髪に結び、その中に標識を取り付ける（後補）。両肩先別材製。右手で鉞斧（新補）を執る。
- 7, 未神 本軀は面を大きく左方に向ける。炎髪に結び、その中に標識を取り付ける（後補）。両肩先より先は同材から彫出。左手で持物（後補剣）。
- 8, 午神 本軀頭部は髪を炎髪に結び、その中に標識を取り付ける（後補）。

両肩先別材製。左手で三叉戟を執る（後補）。

9、申神 本軀頭部は髪を炎髪に結い、その中に標識を取り付ける（後補）。  
左手首先同材かどうか不明。持物（新補弓箭）。

10、酉神 本軀頭部は髪を炎髪に結い、その中に標識を取り付ける。頭部  
新補。持物宝棒（上部後補、下部新補）。

11、戌神 本軀頭部は髪を炎髪に結い、その中に標識の胴部を造り出し、  
頭部は新補。両腕は腹前で交差する。天衣右側新補。

12 亥神 本軀頭部は左右に髪を結び、中央部に標識を表す（後補）。左臂  
をやや後方にして、右手は肘を曲げて持物宝棒を執る（新補）。

(台座) 岩座部、框部からなり、杉材や桧材組み付け、彩色仕上げ（後補）、胡  
粉下地、彩色仕上げ、現状剥落。岩座は長方形の一材を置き、上方部に二  
か所足柄を穿ち本軀を立てる。長方形台側面に三方を岩状に仕上げた部材  
を取り付け、後方部は省略する。框部は黒塗り方座を二段とする。立ち上  
がり部黒塗り、天板部は彩色が現状僅かに残る。

(光背) 受け台の一部が残る。

#### 【損傷状況】

(本軀)

- 1) 表面上に塗られた胡粉下地がわずかに残っていた。
- 2) 本体の方の矧ぎ目が緩み、脱落していた。
- 3) 十二支獣の標識が欠失していた。
- 4) 持物が欠失していたり、一部形状不適合であった。

(台座)

- 1) 表面に塗られた胡粉下地がわずかに残っていた。
- 2) 各岩部の矧ぎ目が緩み脱落していた。また欠失箇所も見られた。

(光背) 亡失

#### 【修理仕様】

(本軀)

- 1) 軀部に残る黒色系の下地やその上に塗られた白色系の彩色下地はふのり液、  
メチルセルロース (1.0~1.5%) で補強して剥落止めを行なった。
- 2) 本軀子神像の矧ぎ目が僅かに緩みがあり、一旦割り離して、清掃後、麦漆

で接合した。

3) 寅神・卯神像・酉神像・戌神像の欠損箇所は桧材で補作した。

4) 卯神像・巳神・申神像・酉神像・亥神像の持物の欠失や不適合な箇所は桧材で補

作した。

5) 背面に光背受け台が一部残るが、一旦取り離し、元の位置に戻した。なお欠損している箇所は補足しなかった。

(台座)

1) 表面に塗られている胡粉下地はふのり液や、メチルセルロース (1.0~1.5%) で補強して剥落止めを行なった。

3) 各像岩部は一旦取り離し、清掃後、麦漆で接合するし、又欠失した箇所の岩部は桧材で補作した。

以上、各修理箇所は色調を整えた。

本工事は奈良大学文化財学科大河内智之先生のご指導の下に施工された。

【工 期】

十二ヶ月

【施工場所】

泉企画工房

〒606-8401

京都市左京区浄土寺小山町1-33

有限会社泉企画

取締役 泉谷聖子

電話・FAX 075-771-0782

sizumiya@yd5.so-net.ne.jp

